

第2章 高齢者を取り巻く現状

- 1 人口・世帯の状況
- 2 認知症高齢者の状況
- 3 要介護（要支援）認定者の状況
- 4 高齢者保健福祉の推進に関する住民意識調査
- 5 日常生活圏域二一ズ調査の状況
- 6 後期高齢者医療の動向
- 7 社会参加・生きがいづくりの状況

第2章 高齢者を取り巻く現状

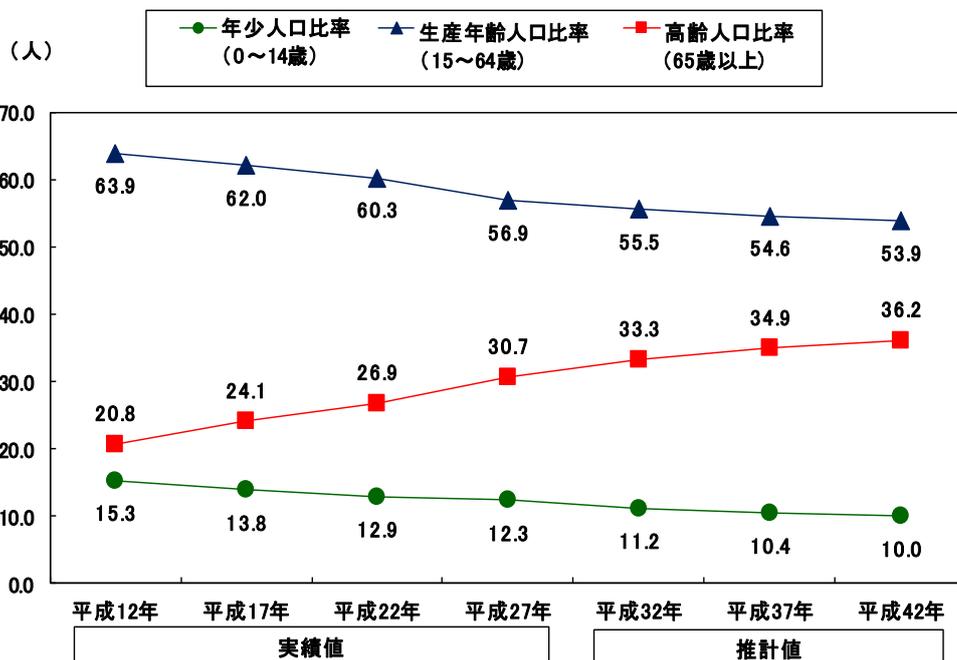
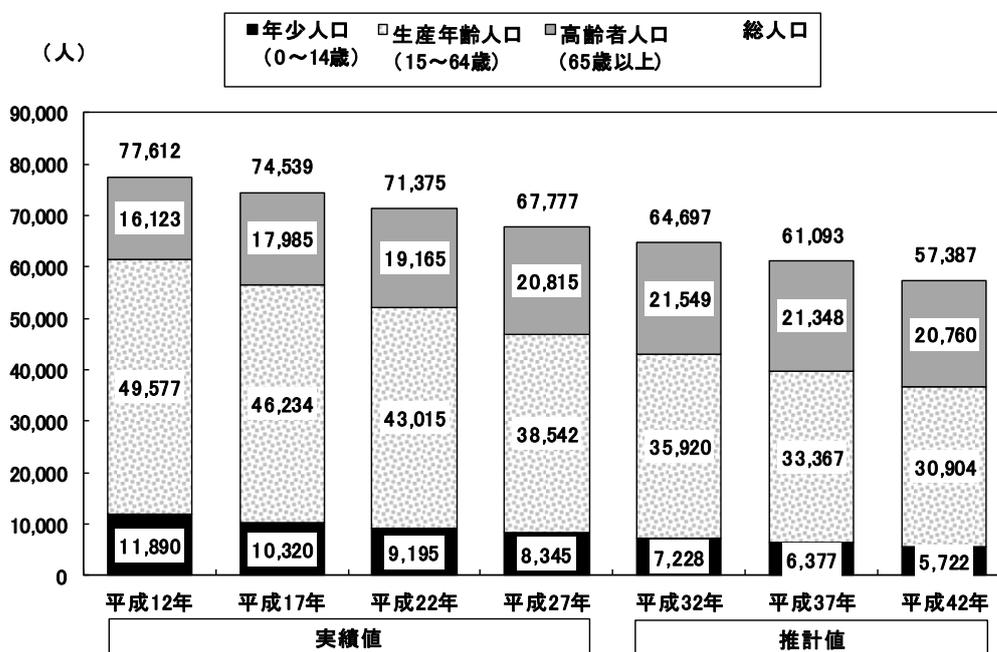
1 人口・世帯の状況

(1) 人口の状況

ア 年齢別人口の推移

柳川市の総人口が平成12年以降減少傾向にある中、少子化、高齢化の傾向は変わらず、年少人口は平成27年の12.3%から平成32年には11.2%、平成42年には10.0%、高齢化率は平成27年の30.7%から平成32年には33.3%、平成42年には36.2%となり、超少子高齢社会は拡大しています。

■ 年齢別人口の推移 ■



	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年
年少人口(0～14歳)	11,890	10,320	9,195	8,345	7,228	6,377	5,722
生産年齢人口(15～64歳)	49,577	46,234	43,015	38,542	35,920	33,367	30,904
(65歳以上)	16,123	17,985	19,165	20,815	21,549	21,348	20,760
総人口	77,612	74,539	71,375	67,777	64,697	61,092	57,386

注：人口総数には年齢不詳者も含まれているため、年齢3区分の積み上げ人口には一致しない場合がある。

注：人口割合については、年齢不詳を除いて算出している。

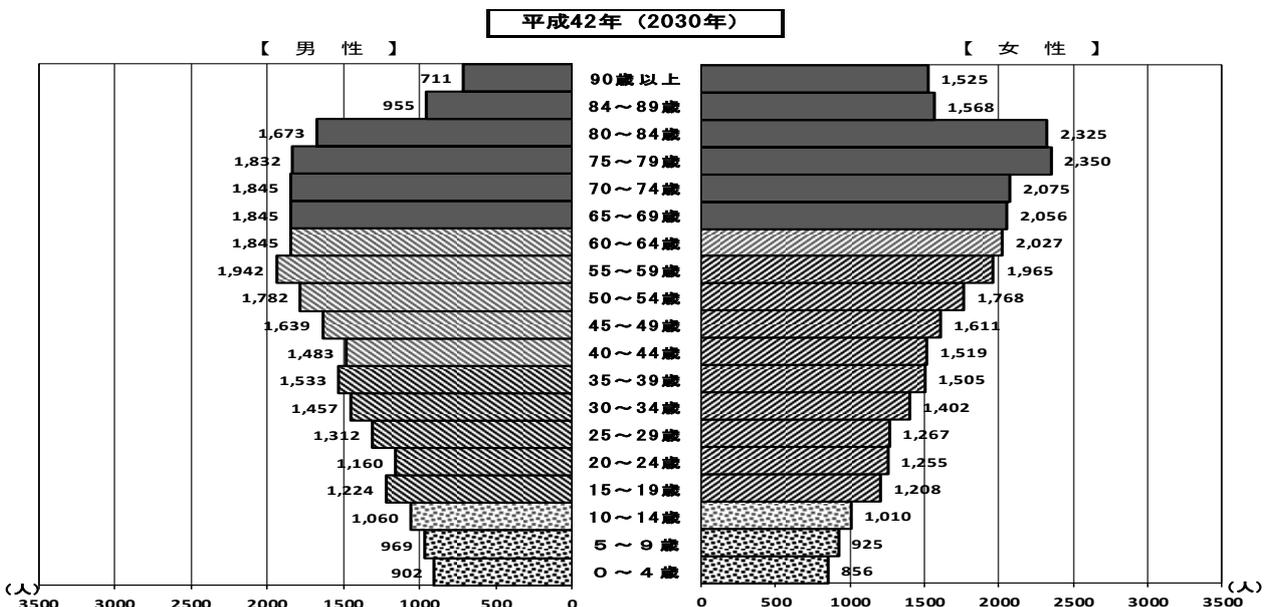
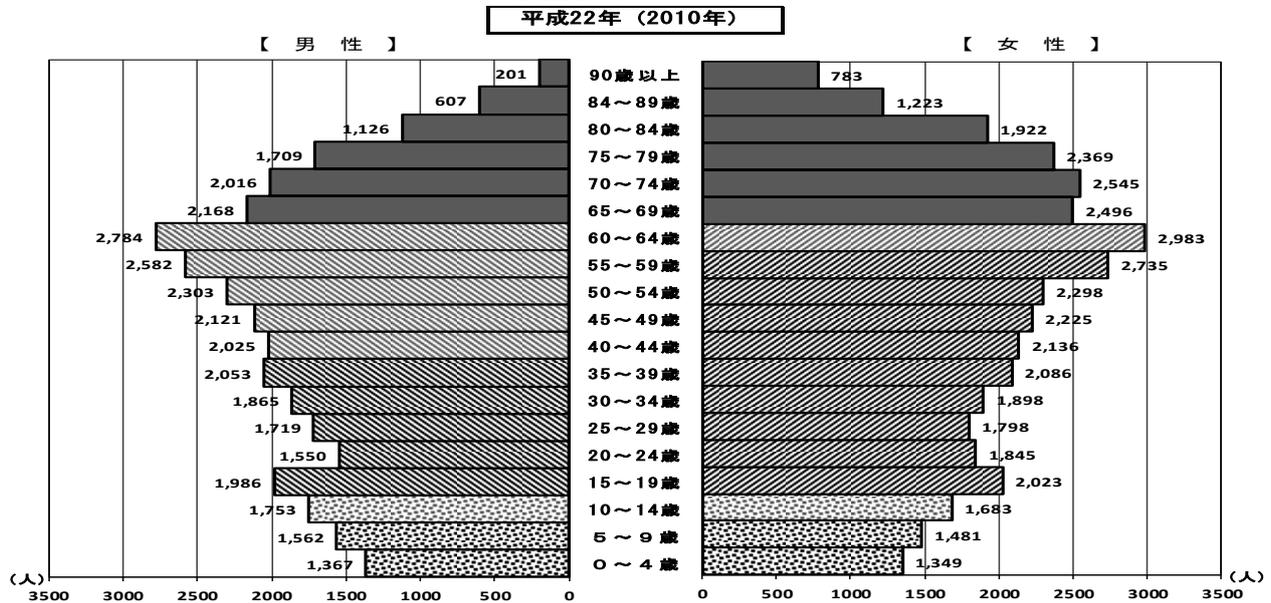
資料：実績値は国勢調査、推計値は国立社会保障・人口問題研究所推計

イ 人口ピラミッド

平成22年(2010年)と平成42年(2030年)の5歳階級別人口ピラミッドの比較を行ってみると、20年間で人口構成が大きく変化すると推計されています。

平成42年には、男性は55歳～59歳、女性は75歳～79歳をピークに人口が集中することから、今後は高齢者人口の割合がますます増加していくことが予想されます。

■ 5歳階級別人口ピラミッド ■

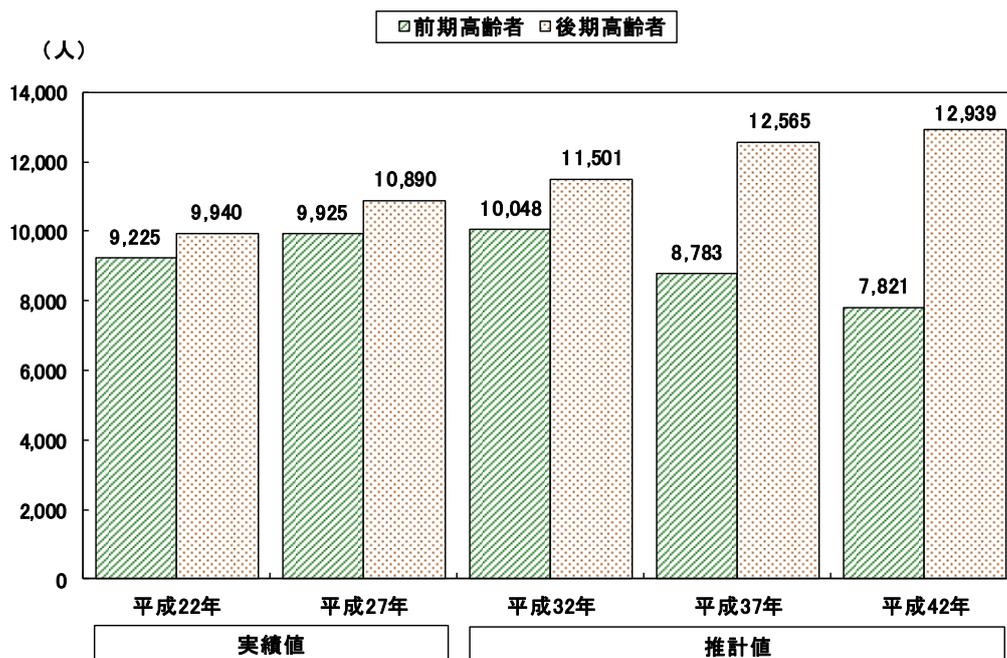


資料：平成22年は国勢調査、平成42年は国立社会保障・人口問題研究所推計

(2) 高齢者人口の見込み

65歳以上の高齢者人口の内訳をみると、65～74歳の前期高齢者は平成32年の10,048人をピークに減少し、平成42年には7,821人と約22%減少するのに対し、75歳以上の後期高齢者は平成32年の11,501人から平成42年には12,939人と約13%の増加となっています。

■前期・後期高齢者人口の推計■



	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年
前期高齢者	9,225	9,925	10,048	8,783	7,821
後期高齢者	9,940	10,890	11,501	12,565	12,939

資料：実績値は国勢調査、推計値は国立社会保障・人口問題研究所推計

(3) 高齢者世帯の状況

過去5年間の要配慮世帯である「高齢単身世帯」「高齢夫婦世帯」の推移をみると、いずれも増加しており、一般世帯数に占める割合も、5年間で前者は2.1ポイント、後者は1.5ポイント増加しています。一方、母子世帯・父子世帯のひとり親世帯はほぼ横ばいとなっています。

■高齢単身世帯などの推移■

	平成22年		平成27年	
	世帯数	構成比(%)	世帯数	構成比(%)
一般世帯数	23,289	100.0	23,398	100.0
高齢単身世帯数	2,020	8.7	2,537	10.8
高齢夫婦世帯数	2,103	9.0	2,468	10.5
母子世帯数	410	1.8	406	1.7
父子世帯数	41	0.2	32	0.1

資料：国勢調査

2 認知症高齢者の状況

平成 29 年 11 月現在で、本市の要介護（要支援）認定者のうち、主治医意見書による認知症高齢者の日常生活自立度がⅡ以上の高齢者は 61.9%にのぼり、これは本市の 65 歳以上の高齢者の約 11.1%にあたります。なお、介護保険未認定者などを加えると実際の認知症高齢者数はこれよりも多いと考えられます。

■日常生活自立度別認定者数■

	現在（H29.11.1 現在）	推計（H32）
総数	3,858	4,251
自立	717	790
I	754	831
Ⅱ a	441	486
Ⅱ b	736	811
Ⅲ a	626	690
Ⅲ b	211	232
Ⅳ	323	356
M	50	55

資料：福岡県介護保険広域連合より

■認知症高齢者の日常生活自立度■

レベル	判断基準	具体的症状
自立	認知症なし	特になし
I	「何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態」基本的には在宅で自立した生活が可能なレベルです	軽度の物忘れがありますが火の不始末や薬の飲み忘れはみられず、家族や支援をする人がいれば日常で困る事はほとんど無い状態
Ⅱ a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少みられても、誰かが注意していれば自立できる状態」	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでにできたことにミスが目立つなど
Ⅱ b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内でみられるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態」	服薬管理が出来ない、電話の応対や訪問者との対応など一人で留守番が出来ないなど
Ⅲ a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心にみられ、介護を必要とする状態」	着替え、食事、排便排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声、奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為など
Ⅲ b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にもみられるようになり、介護を必要とする状態」	ランクⅢ a に同じ
Ⅳ	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁にみられ、常に介護を必要とする状態」	ランクⅢ に同じ
M	「著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患がみられ、専門医療を必要とする状態」	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害などの精神症状や精神症状に関連する問題行動が持続する状態など

資料：厚生労働省「認知症高齢者の日常生活自立度」より抜粋

また、平成 28 年度に福岡県介護保険広域連合が実施した日常生活圏域ニーズ調査において、65 歳以上で要介護（要支援）認定を受けていない市民のうち、6.6%に軽度以上（2レベル以上）の認知機能障がいがあることわかりました。

■ 認知症機能障がい程度（CPS）別高齢者数 ■

	現在（H28）	推計（H32）
総数	17,139	17,412
0 レベル	13,155	13,364
1 レベル	2,399	2,437
2 レベル	670	681
3 レベル	256	260
4 レベル	53	54
5 レベル	108	110
6 レベル	6	6
不明	492	500

資料：福岡県介護保険広域連合より ※認知機能の障がい程度については、サンプル調査からの推計値

【認知機能障がいの程度（CPS）】

0 レベル	障がいなし
1 レベル	境界的である
2 レベル	軽度の障がいがある
3 レベル	中等度の障がいがある
4 レベル	やや重度の障がいがある
5 レベル	重度の障がいがある
6 レベル	最重度の障がいがある

資料：厚生労働省老健局「日常生活圏域ニーズ調査モデル事業・結果報告書」P15 より抜粋

3 要介護（要支援）認定者の状況

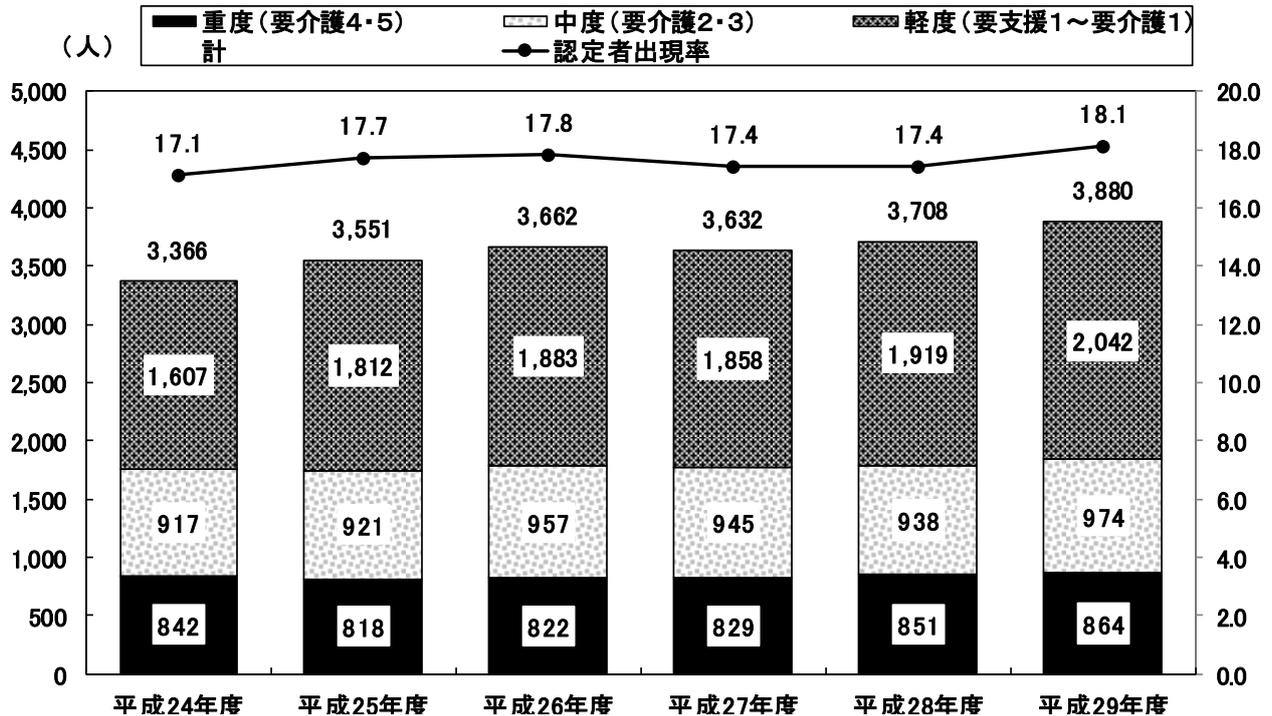
(1) 要介護（要支援）認定者の推移

～要介護（要支援）認定者数は増加傾向、特に軽度の要介護者が増加～

本市の要介護（要支援）認定者は毎年増加しており、平成29年9月末時点では3,880人、認定者出現率は18.1%となっています。

また、要介護度別にみると、軽度（要支援1～要介護1）の増加が顕著となっています。

■要介護（要支援）認定者推移■



単位：人、%

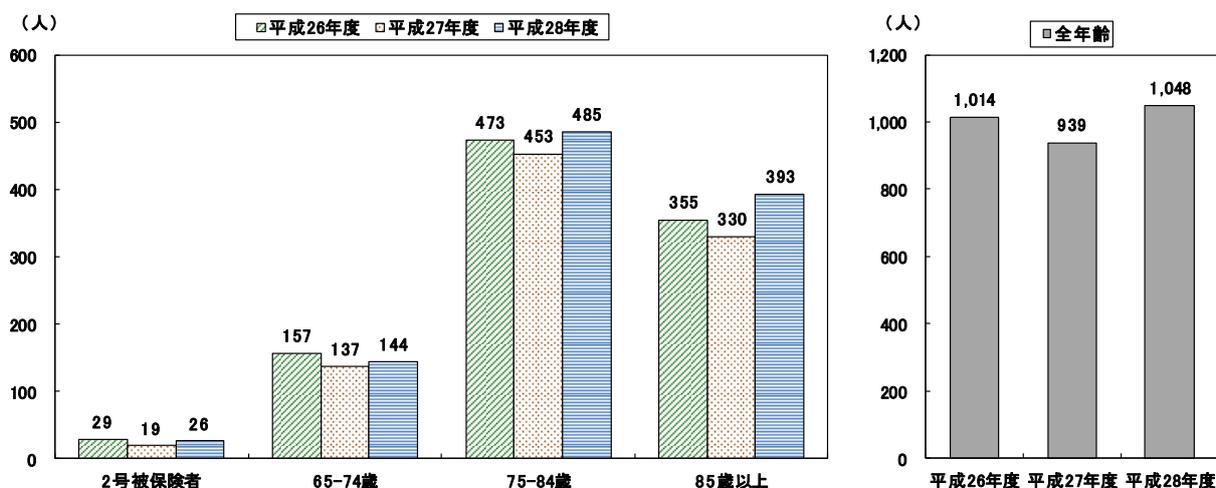
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
重度（要介護4・5）	842	818	822	829	851	864
中度（要介護2・3）	917	921	957	945	938	974
軽度（要支援1～要介護1）	1,607	1,812	1,883	1,858	1,919	2,042
合計（グラフの上の数字）	3,366	3,551	3,662	3,632	3,708	3,880
認定者出現率（%）	17.1	17.7	17.8	17.4	17.4	18.1

資料：福岡県介護保険広域連合より

(2) 年齢別新規要介護（要支援）認定者の状況

～年間平均 1,000 名の高齢者が新たに要介護（要支援）認定者に。特に 75 歳から急増～
 平成 26 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの 3 年間に新たに要支援・要介護認定を受けた 3,001 名を分析したところ、平成 28 年度は平成 26 年度と比較して、新規に要介護（要支援）認定を受けた人が、75 歳～84 歳と 85 歳以上では増加していますが、2 号被保険者と 65 歳～74 歳以上では減少し、全体で 34 名増加していました。

■新規要介護（要支援）認定者数の推移■



	2号被保険者	65-74歳	75-84歳	85歳以上
平成26年度	29	157	473	355
平成27年度	19	137	453	330
平成28年度	26	144	485	393

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
全年齢	1,014	939	1,048

資料：福岡県介護保険広域連合より

また、年齢階級別の高齢者人口に対する新規要介護（要支援）認定者の出現率をみると、年齢が高くなるにともなって高くなり、特に 75 歳から急増していることがわかります。

新規要介護（要支援）認定者が急増する 75 歳以上を中心に、特定健康診査・特定保健指導と連携した 75 歳未満の介護予防対策や、75 歳に到達した高齢者に対する介護予防施策の必要性が示唆されました。

【年齢別新規要介護（要支援）認定者出現率】

	2号被保険者	65-74歳	75-84歳	85歳以上	全年齢(再掲)
平成 26-28 年度	0.11%	1.37%	5.88%	10.24%	2.18%

資料：福岡県介護保険広域連合より

(3) 性別・介護度別新規要介護（要支援）認定者の状況

～男性は要支援1、要介護1、女性は要支援1の新規認定者が最も多い～

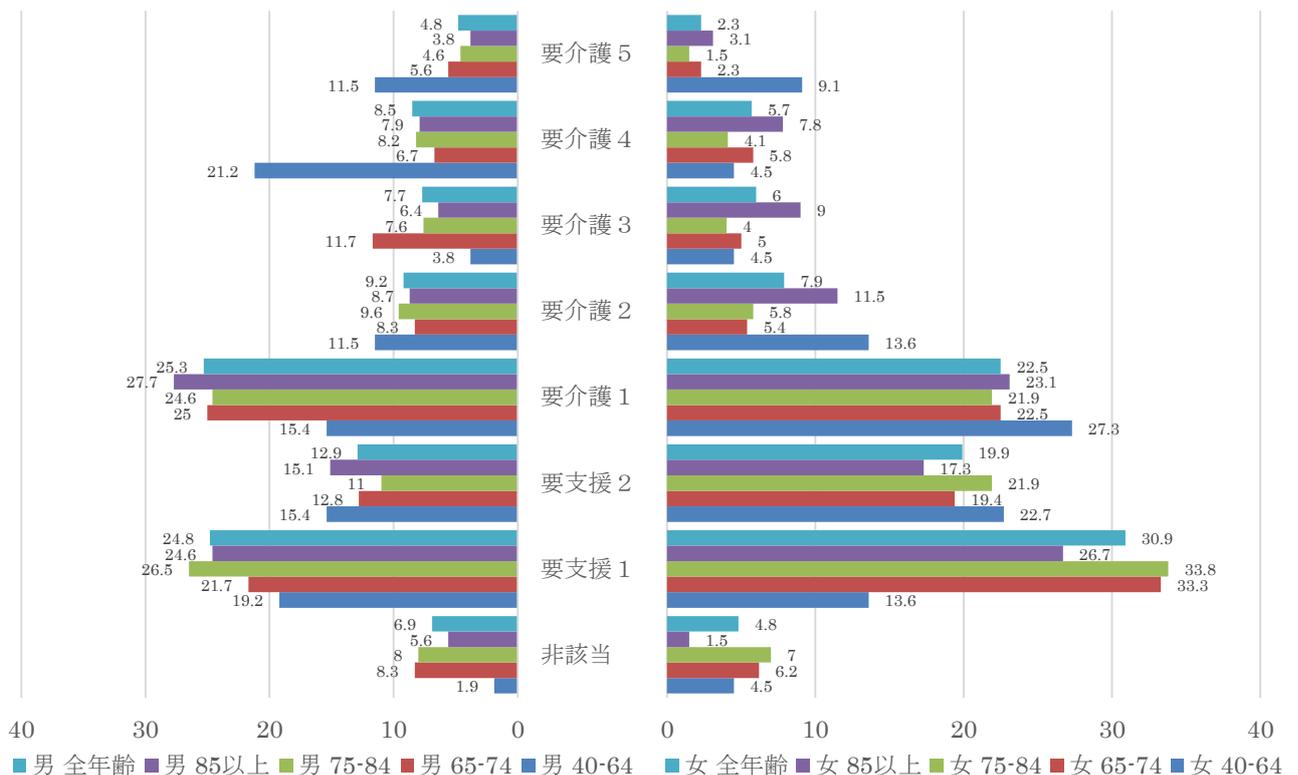
平成26年4月1日から平成29年3月31日までの3年間に新たに要支援・要介護認定を受けた3,001名を分析したところ、40歳から64歳の年齢層において、男性は要介護4、女性は要介護1が最も多くなっています。65歳から74歳の前期高齢者においては、男性で要介護1、女性は要支援1が最も多く、75歳から84歳の層においては、男性で要支援1、女性は要支援1が最も多く、85歳以上の層においては、男性で要介護1、女性は要支援1が最も多く、軽度の新規認定者が多い状況です。

■新規要介護（要支援）認定者介護度構成比（平成26年度～平成28年度）■

H26-H28	男					女				
	40-64	65-74	75-84	85以上	全年齢	40-64	65-74	75-84	85以上	全年齢
非該当	1.9%	8.3%	8.0%	5.6%	6.9%	4.5%	6.2%	7.0%	1.5%	4.8%
要支援1	19.2%	21.7%	26.5%	24.6%	24.8%	13.6%	33.3%	33.8%	26.7%	30.9%
要支援2	15.4%	12.8%	11.0%	15.1%	12.9%	22.7%	19.4%	21.9%	17.3%	19.9%
要介護1	15.4%	25.0%	24.6%	27.7%	25.3%	27.3%	22.5%	21.9%	23.1%	22.5%
要介護2	11.5%	8.3%	9.6%	8.7%	9.2%	13.6%	5.4%	5.8%	11.5%	7.9%
要介護3	3.8%	11.7%	7.6%	6.4%	7.7%	4.5%	5.0%	4.0%	9.0%	6.0%
要介護4	21.2%	6.7%	8.2%	7.9%	8.5%	4.5%	5.8%	4.1%	7.8%	5.7%
要介護5	11.5%	5.6%	4.6%	3.8%	4.8%	9.1%	2.3%	1.5%	3.1%	2.3%

資料：福岡県介護保険広域連合より

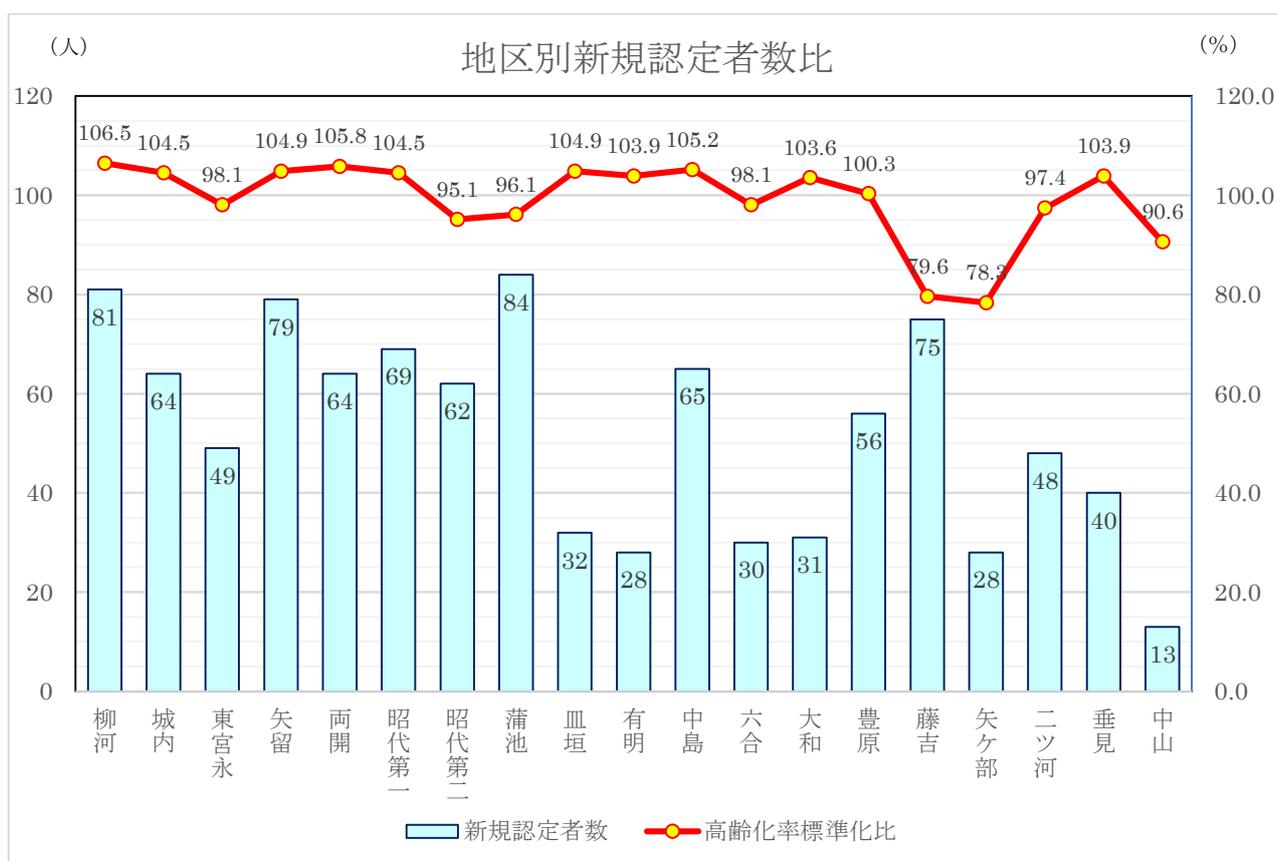
【新規要介護（要支援）認定者介護度構成比】



(4) 地区別新規要介護（要支援）認定者数の状況

～蒲池、柳河、矢留、藤吉の地区の順に新規認定者数が高い～

平成 28 年度の 65 歳以上の新規要介護（要支援）認定者数の状況を地区ごとにみると、蒲池、柳河、矢留、藤吉の地区の順に多いことがわかりました。地区ごとに人口規模の違いはありますが、新規での要介護（要支援）認定者数の多い地区は、市民と行政が一体となって、介護予防教室や地域デイサービス、巡回型介護予防健診などの介護予防対策を重点的に周知・啓発を行い、参加を促進させる必要があります。



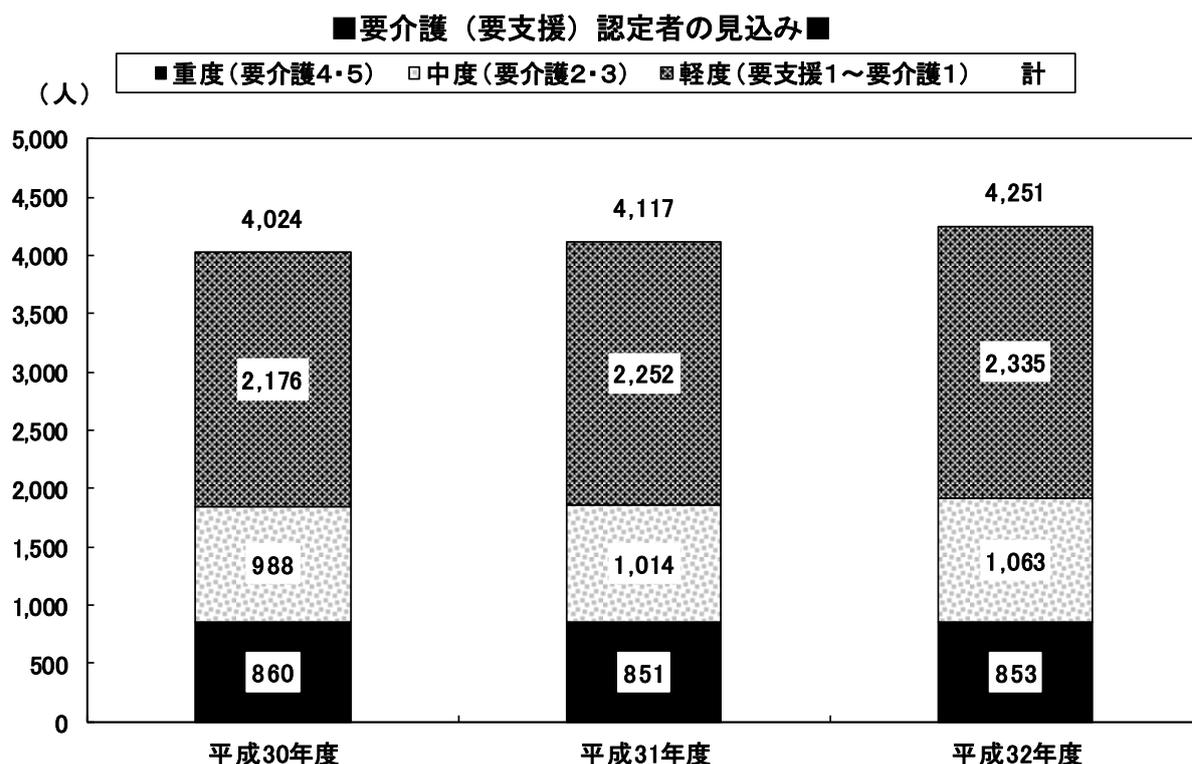
校 区	柳河	城内	東宮永	矢留	両開	昭代第一	昭代第二	蒲池	皿垣	有明
高齢化率標準化比 (%)	106.5	104.5	98.1	104.9	105.8	104.5	95.1	96.1	104.9	103.9
新規認定者数 (人)	81	64	49	79	64	69	62	84	32	28
校 区	中島	六合	大和	豊原	藤吉	矢ヶ部	ニッ河	垂見	中山	
高齢化率標準化比 (%)	105.2	98.1	103.6	100.3	79.6	78.3	97.4	103.9	90.6	
新規認定者数 (人)	65	30	31	56	75	28	48	40	13	

資料：福岡県介護保険広域連合より

(5) 要介護（要支援）認定者の見込み

～認定者は増加の見込み～

福岡県介護保険広域連合による第7期介護保険事業計画期間（平成30～32年度）における本市の要介護（要支援）認定者の推計値は、以下のようになっています。これをみると、平成32年には要介護（要支援）認定者数が4,251人に達すると見込まれています。



	平成30年		平成31年		平成32年	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
軽度（要支援1～要介護1）	2,176	54.1%	2,252	54.7%	2,335	54.9%
中度（要介護2・3）	988	24.6%	1,014	24.6%	1,063	25.0%
重度（要介護4・5）	860	21.3%	851	20.7%	853	20.1%
合計	4,024		4,117		4,251	

資料：福岡県介護保険広域連合より

4 高齢者保健福祉の推進に関する住民意識調査

(1) 調査概要

ア 調査の目的

本調査は、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていけるよう、市民の高齢者保健福祉に関するニーズや課題を把握することを目的として実施しました。

イ 調査実施方法

調査は、以下の方法により調査を実施しました。

1.調査対象者と抽出方法	市内にお住まいの18歳以上の方の中から3,000人を無作為に抽出
2.調査方法	郵送配布・郵送回収
3.調査期間	平成29年8月1日～8月28日
4.回収状況	配布数 3,000 回収数 967 回収率 32.2%

(2) 調査結果

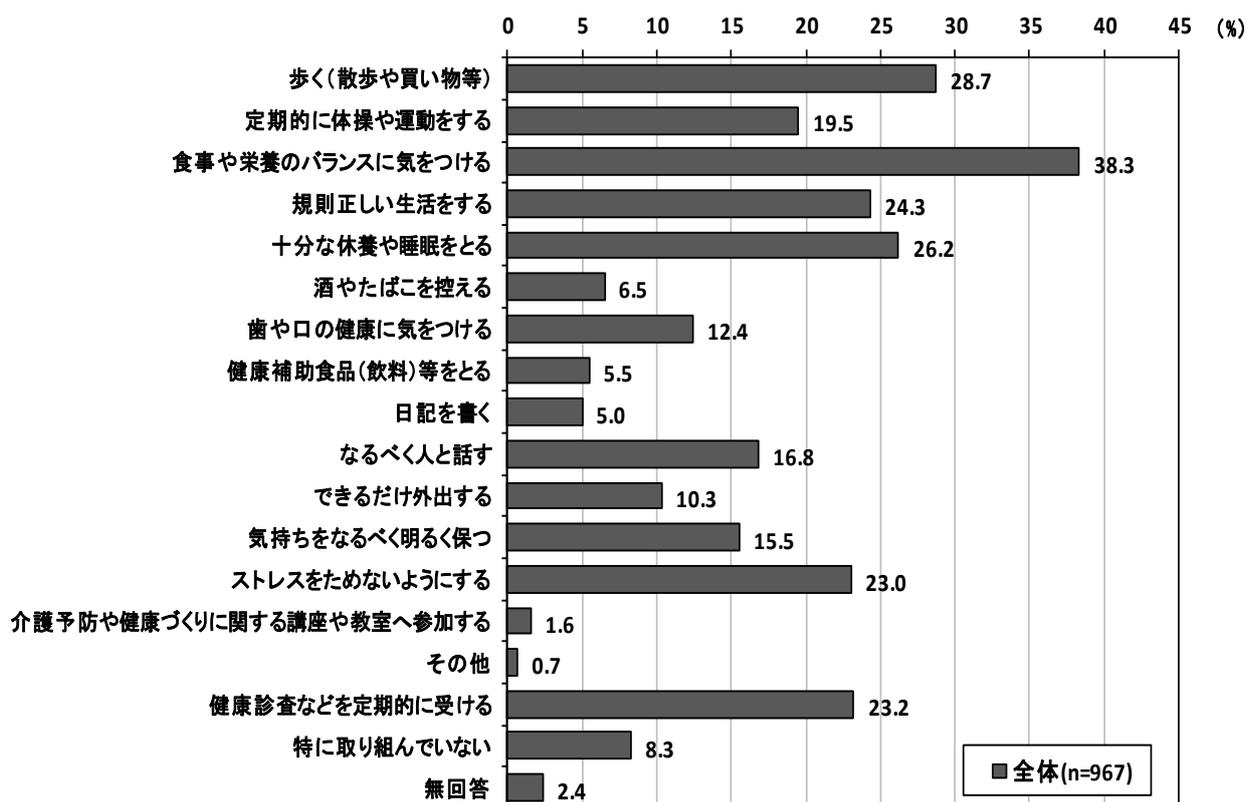
ア 介護予防や健康保持のために日常生活の中で取り組んでいること

【全対象者の意向】

介護予防や健康保持のために日常生活の中で取り組んでいることについては、「食事や栄養のバランスに気をつける」が38.3%と最も多く、次いで「歩く（散歩や買い物等）」（28.7%）、「十分な休養や睡眠をとる」（26.2%）、「規則正しい生活をする」（24.3%）、「健康診査などを定期的に受ける」（23.2%）、「ストレスをためないようにする」（23.0%）となっています。

【高齢者の意向】

前期高齢者（65～74歳）は「食事や栄養のバランスに気をつける」（43.8%）が最も多く、後期高齢者（75歳以上）は「歩く（散歩や買い物等）」（49.0%）が最も多くなっています。また、両者ともに「歩く（散歩や買い物等）」が他の年齢よりも多くなっています。



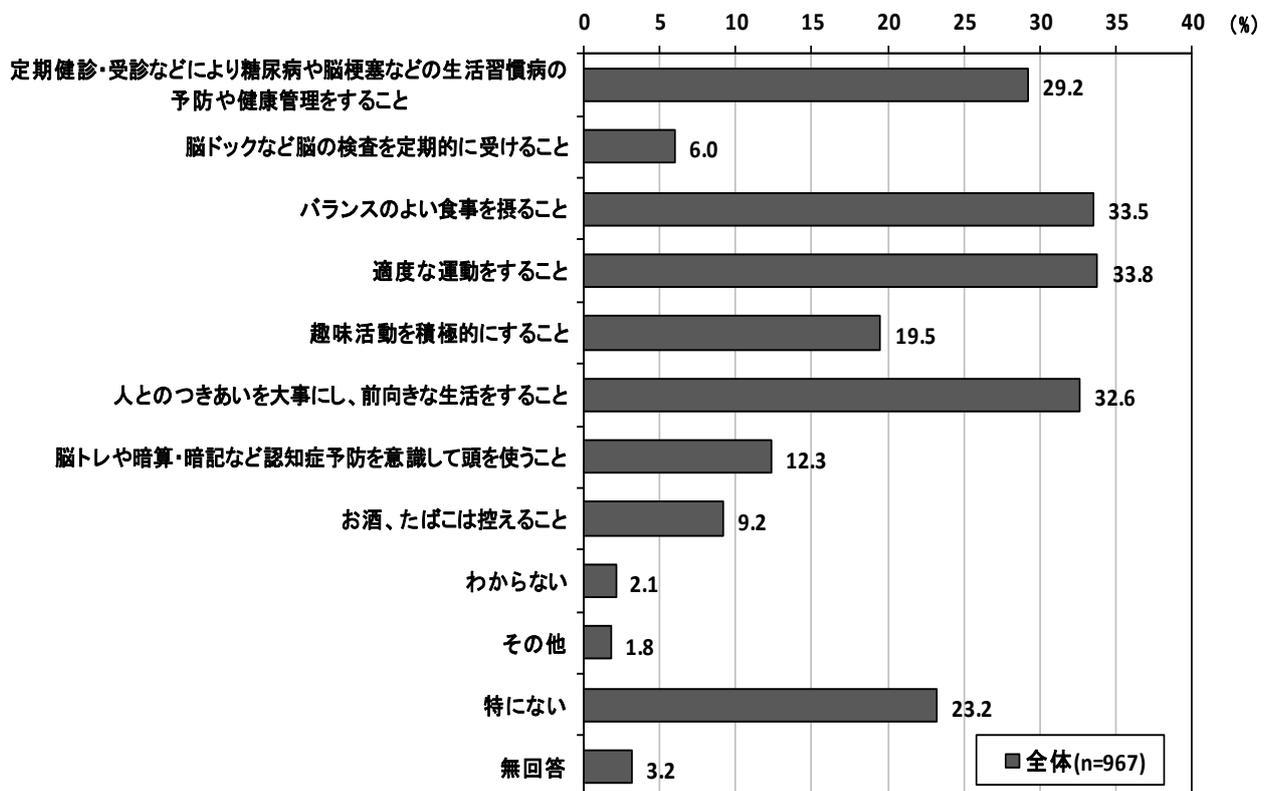
イ 認知症予防のために取り組んでいること

【全対象者の意向】

認知症予防のために取り組んでいることについては、「適度な運動をすること」が 33.8%と最も多く、次いで「バランスのよい食事を摂ること」(33.5%)、「人とのつきあいを大事にし、前向きな生活をする事」(32.6%)、「定期健診・受診などにより糖尿病や脳梗塞などの生活習慣病の予防や健康管理をすること」(29.2%) となっています。

【高齢者の意向】

前期高齢者(65~74歳)は「バランスのよい食事を摂ること」(40.4%)が最も多く、後期高齢者(75歳以上)は「適度な運動をすること」(45.4%)が最も多くなっています。また、両者ともにいろいろな予防対策に取り組まれています。



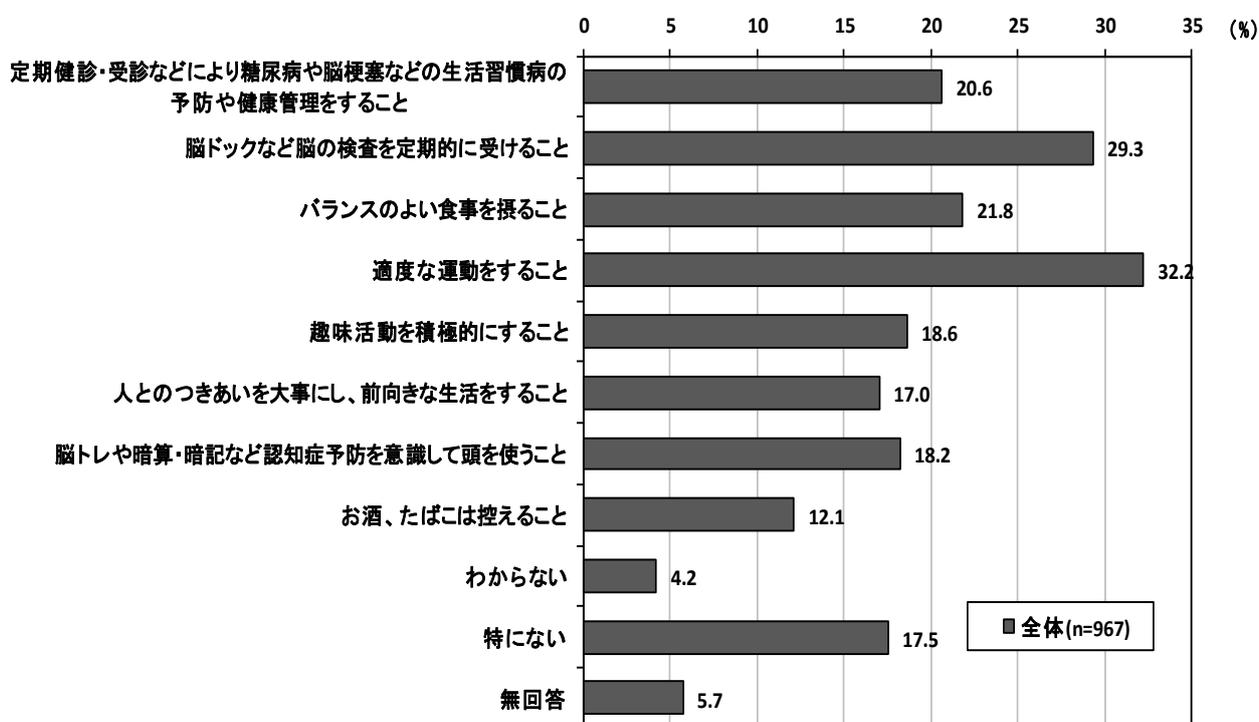
ウ 認知症予防のために取り組めていないこと

【全対象者の意向】

認知症予防のために取り組めていないことについては、「適度な運動をすること」が 32.2% と最も多く、次いで「脳ドックなど脳の検査を定期的に受けること」(29.3%)、「バランスのよい食事を摂ること」(21.8%)、「定期健診・受診などにより糖尿病や脳梗塞などの生活習慣病の予防や健康管理をすること」(20.6%) となっています。

【高齢者の意向】

前期高齢者(65~74歳)は「脳ドックなど脳の検査を定期的に受けること」(35.1%)が最も多く、後期高齢者(75歳以上)は「人とのつきあいを大事にし、前向きな生活をする」と「適度な運動をすること」(28.6%)が最も多くなっています。



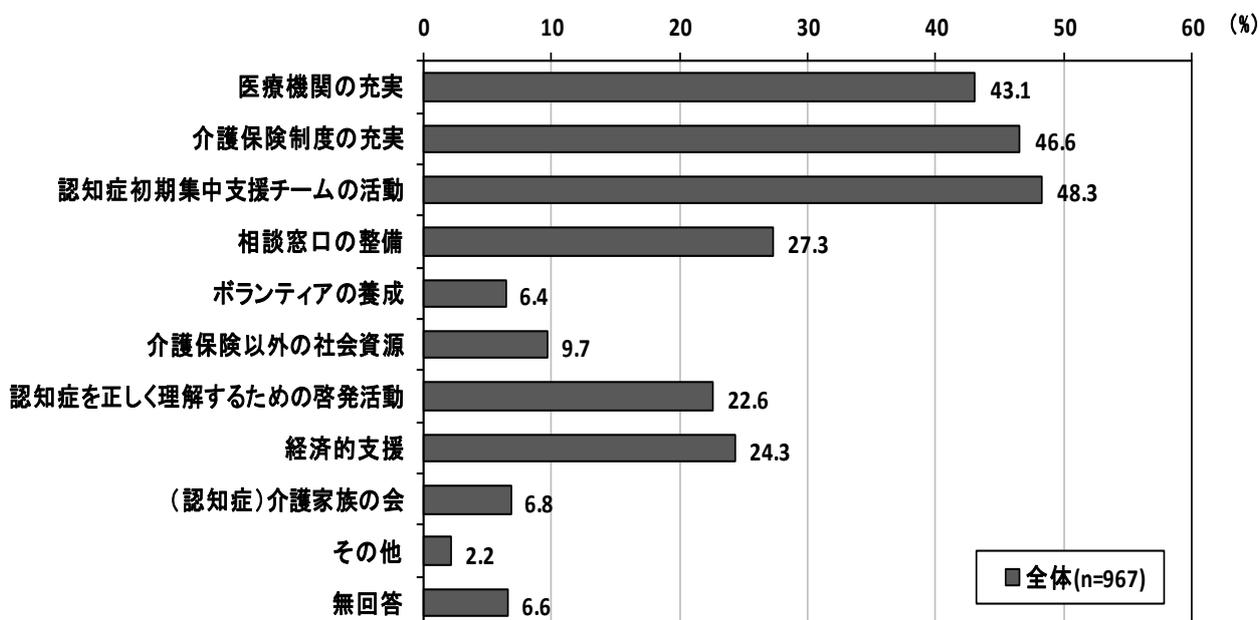
工 認知症になっても地域で住み続けるために社会的に必要なもの

【全対象者の意向】

認知症になっても地域で住み続けるために社会的に必要なものについては、「認知症初期集中支援チームの活動」が48.3%と最も多く、次いで「介護保険制度の充実」(46.6%)、「医療機関の充実」(43.1%)となっています。

【高齢者の意向】

前期高齢者(65~74歳)は「認知症初期集中支援チームの活動」(51.0%)が最も多く、後期高齢者(75歳以上)は「介護保険制度の充実」(50.0%)が最も多くなっています。また、両者ともに「認知症を正しく理解するための啓発活動」が他の年齢より多くなっています。



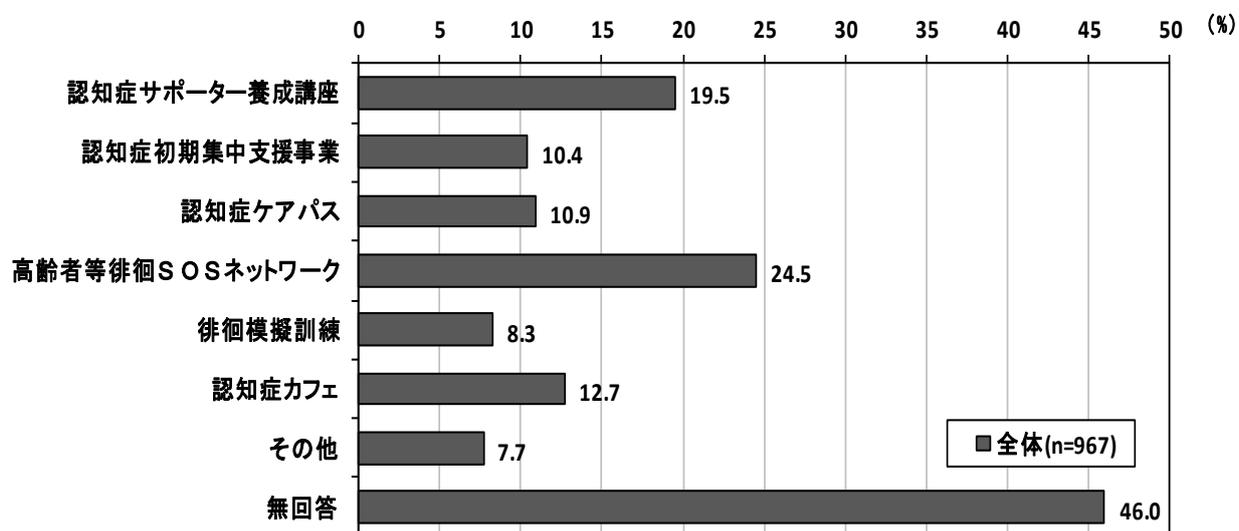
オ 認知症施策についての認知状況

【全対象者の意向】

認知症施策の認知状況については、「高齢者等徘徊SOSネットワーク」が24.5%と最も多く、次いで「認知症サポーター養成講座」(19.5%)、「認知症カフェ」(12.7%)となっています。なお、「無回答」が46.0%と半数近くとなっています。

【高齢者の意向】

前期高齢者(65~74歳)、後期高齢者(75歳以上)ともに「高齢者等徘徊SOSネットワーク」が最も多くなっています。また、後期高齢者(75歳以上)は「認知症初期集中支援事業」の認知度が他の年齢より多くなっています。



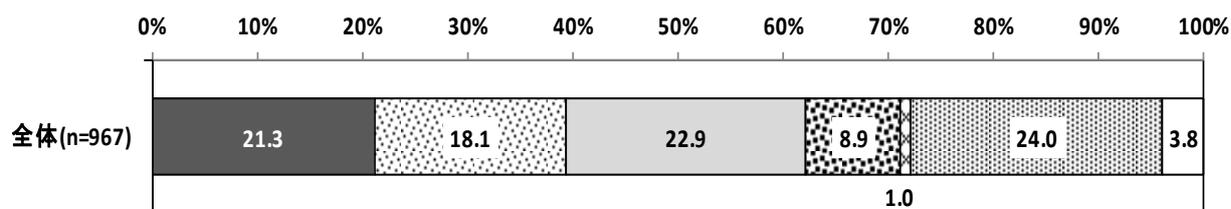
カ 寝たきりや認知症になった時、介護を受けたい場所

【全対象者の意向】

老後に寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に、何処で介護を受けたいと思うかについては、「わからない」が24.0%と最も多く、次いで「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」(22.9%)、「現在の住まいで介護を受けたい」(21.3%)、「介護付きの有料老人ホームや高齢者住宅に住みかえて介護を受けたい」(18.1%)、「病院に入院して介護を受けたい」(8.9%)となっています。

【高齢者の意向】

前期高齢者(65~74歳)は「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」(28.8%)が最も多く、後期高齢者(75歳以上)は「現在の住まいで介護を受けたい」(29.6%)が最も多くなっています。



- 現在の住まいで介護を受けたい
- ▨ 介護付きの有料老人ホームや高齢者住宅に住みかえて介護を受けたい
- ▩ 特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい
- ▧ 病院に入院して介護を受けたい
- ▦ その他
- ▤ わからない
- 無回答

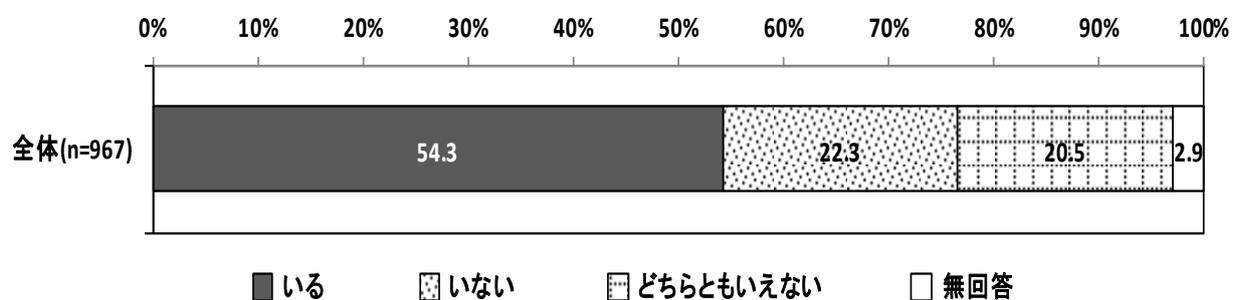
キ かかりつけ医

【全対象者の意向】

体の不調について、気軽に相談できる「かかりつけ医」がいるかについては、「いる」が54.3%、「いない」が22.3%となっています。なお、「どちらともいえない」が20.5%となっています。

【高齢者の意向】

前期高齢者（65～74歳）は「いる」が64.4%、後期高齢者（75歳以上）は「いる」が83.7%で他の年齢よりも多くなっています。



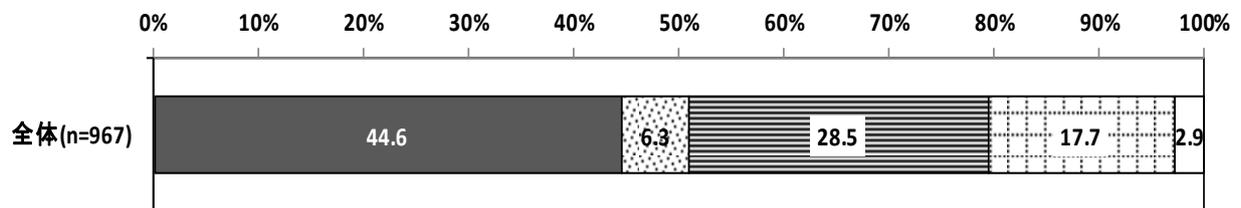
ク 将来の暮らし方

【全対象者の意向】

将来単身または高齢者のみの世帯になった場合、どのように暮らしたいかについては、「いつまでも住み慣れた地域で暮らしたい」が44.6%と最も多く、次いで「医療、介護体制の整った施設に入りたい」(28.5%)、「わからない」(17.7%)、「地域をはなれても家族と暮らしたい」(6.3%)となっています。

【高齢者の意向】

前期高齢者(65~74歳)、後期高齢者(75歳以上)ともに「いつまでも住み慣れた地域で暮らしたい」が最も多くなっています。



- いつまでも住み慣れた地域で暮らしたい
- ▣ 地域をはなれても家族と暮らしたい
- ▨ 医療、介護体制の整った施設に入りたい
- ▤ わからない
- 無回答

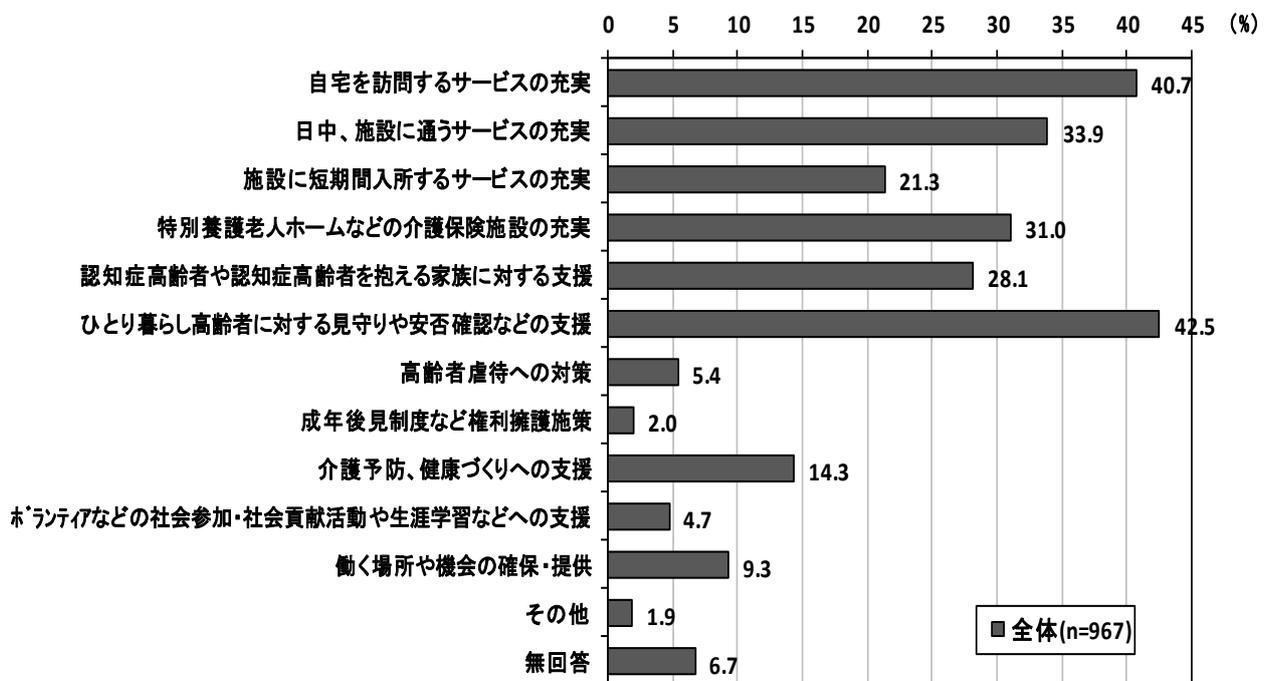
ケ 高齢者に対する施策や支援で大切なこと

【全対象者の意向】

高齢者に対する施策や支援で、特に大切だと思うことについては、「ひとり暮らし高齢者に対する見守りや安否確認などの支援」が42.5%と最も多く、次いで「自宅を訪問するサービスの充実」(40.7%)、「日中、施設に通うサービスの充実」(33.9%)、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設の充実」(31.0%)、「認知症高齢者や認知症高齢者を抱える家族に対する支援」(28.1%)、「施設に短期間入所するサービスの充実」(21.3%)となっています。

【高齢者の意向】

前期高齢者(65～74歳)、後期高齢者(75歳以上)ともに「自宅を訪問するサービスの充実」が最も多くなっています。



5 日常生活圏域二一ズ調査の状況

(1) 調査概要

本調査結果は、福岡県介護保険広域連合が平成 28 年度[下期]に 65 歳以上の要介護認定を受けていない方を基本として行った調査結果のうち、柳川市調査対象者分を取りまとめたものです。

【回収状況】

発送数	有効回収数	有効回収率	(参考) 広域連合全体の有効回収率
17,139	9,050	52.8%	60.9%

【回答者の基本属性】

■性別■

	調査数 (人)	男性	女性	無回答
全体	9,050	43.6%	56.4%	-
一般	5,324	47.3%	52.7%	-
二次予防	3,404	37.9%	62.1%	-

■年齢■

	調査数 (人)	65-69 歳	70-74 歳	75-79 歳	80-84 歳	85 歳以上	無回答	平均年齢 (歳)	(参考) 広域連合全体の平均年齢 (歳)
全体	9,050	30.4%	24.6%	23.0%	14.2%	7.7%	-	74.31	73.93
一般	5,324	36.8%	27.4%	22.0%	10.0%	3.8%	-	72.85	72.43
二次予防	3,404	21.9%	21.0%	23.8%	19.7%	13.5%	-	76.31	76.06

■世帯構成■

	調査数 (人)	一人暮らし	配偶者と二人暮らし	配偶者以外と二人暮らし	同居 (3人以上)	その他	無回答	(参考) 広域連合全体の一人暮らしの割合
全体	9,050	10.5%	29.9%	10.0%	46.1%	0.7%	2.9%	12.5%
一般	5,324	10.0%	33.0%	8.9%	45.3%	0.6%	2.3%	11.7%
二次予防	3,404	11.4%	25.9%	11.6%	47.5%	0.7%	2.9%	13.8%

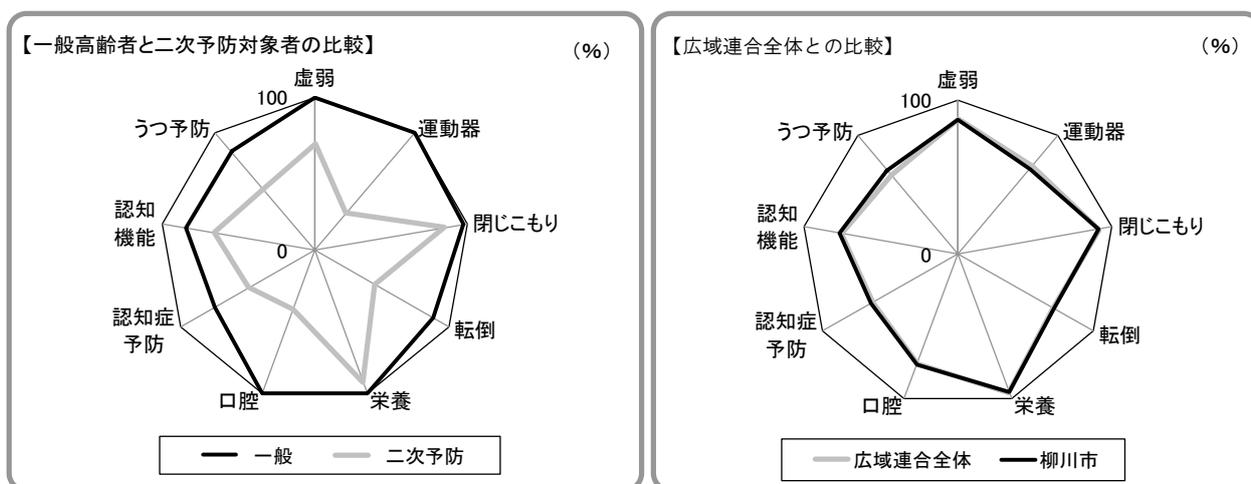
資料：福岡県介護保険広域連合より

(2) 調査結果

ア-1 項目別評価結果（非該当者・リスクなしの割合）

～虚弱、運動器、閉じこもり、栄養は広域連合全体より該当者（リスクあり）が多い～

	調査数 (人)	虚弱	運動器	閉じこもり	転倒	栄養	口腔	認知症予防	認知機能	うつ予防
全 体	9,050	86.9%	71.9%	91.4%	70.7%	95.2%	76.5%	64.1%	76.8%	70.9%
一般	5,324	100.0%	100.0%	97.4%	88.7%	100.0%	100.0%	74.2%	84.8%	84.0%
二次予防	3,404	69.2%	31.6%	85.4%	45.0%	91.9%	41.0%	49.2%	65.7%	51.9%
広域連合全体	73,732	87.6%	73.9%	91.8%	70.2%	95.6%	76.0%	62.6%	75.8%	66.5%



資料：福岡県介護保険広域連合より

ア-2 前回調査時との比較

生活機能の評価項目ごとの非該当者（リスクなし）の割合は、一般高齢者＞二次予防対象者であり、生活機能レベルを反映した結果となっています。

「転倒」「認知症予防」「認知機能」「うつ予防」については、一般高齢者であっても非該当者（リスクなし）は7～9割弱に留っており、該当者（リスクあり）が比較的多くいることがわかります。

前回調査時（平成26年度）と比較して、一般高齢者、二次予防事業対象者ともに、全項目で非該当（リスクなし）が増えています。

	調査数 (人)	虚弱	運動器	閉じこもり	転倒	栄養	口腔	認知症予防	認知機能	うつ予防
全 体	9,050	86.9%	71.9%	91.4%	70.7%	95.2%	76.5%	64.1%	76.8%	70.9%
一般(H26)	5,277	100.0%	100.0%	97.1%	88.3%	100.0%	100.0%	73.9%	83.9%	80.2%
一般(H28)	5,324	100.0%	100.0%	97.4%	88.7%	100.0%	100.0%	74.2%	84.8%	84.0%
二次予防(H26)	3,496	66.9%	29.8%	82.4%	43.0%	90.1%	40.6%	45.7%	59.8%	47.4%
二次予防(H28)	3,404	69.2%	31.6%	85.4%	45.0%	91.9%	41.0%	49.2%	65.7%	51.9%

資料：福岡県介護保険広域連合より

イ 総合評価結果

～二次予防事業対象者の生活機能は、広域連合全体よりも低い～

10点以下（＝リスク項目の半数以上に該当している、リスクが高い者）の人は、一般高齢者にはいないが、二次予防対象者の30.8%が該当しています。

二次予防対象者における10点以下の者の割合は、広域連合全体より0.8ポイント以上高くなっています。

	調査数（人）	10点以下	(参考) 広域連合全体（10点以下）
全体	9,050	13.1%	12.4%
一般	5,324	-	-
二次予防	3,404	30.8%	30.0%

資料：福岡県介護保険広域連合より

ウ-1 日常生活動作（ADL）

～「歩行」「階段昇降」「排便」「排尿」は二次予防対象者で自立度が低下～

日常生活動作の各項目の割合は、一般高齢者>二次予防対象者であり、生活機能のレベルを反映した結果となっています。

「食事」「ベッドへの移動」「整容」「トイレ」「入浴」「着替え」では一般高齢者・二次予防対象者ともに自立者が9割以上を占めており、大きな違いはみられません。

これに対して、「歩行」「排便」では二次予防対象者で自立者の割合が87%～89%程度、「階段昇降」では82.3%とやや低く、「排尿（尿もれ・尿失禁があるか）」では59.5%と低くなっています。

このことから、日常生活動作の中でも、比較的早い時期に低下するものとそうでないものがあることがわかります。

広域連合全体と比較しても大きな違いはみられません。

	調査数 (人)	総合	食事	ベッドへの 移動	整容	トイレ	入浴	歩行	階段 昇降	着替え	排便	排尿
全 体	9,050	69.8%	98.6%	97.9%	98.7%	99.0%	98.2%	94.4%	92.1%	98.5%	94.5%	75.2%
一般	5,324	83.2%	99.5%	99.4%	99.6%	99.7%	99.6%	99.2%	98.8%	99.5%	98.2%	85.3%
二次予防	3,404	49.4%	97.8%	96.3%	97.8%	98.5%	96.4%	87.5%	82.3%	97.4%	89.3%	59.5%
広域連合全体	73,732	71.1%	98.2%	97.7%	98.3%	98.5%	97.6%	94.9%	92.8%	98.0%	94.3%	75.9%

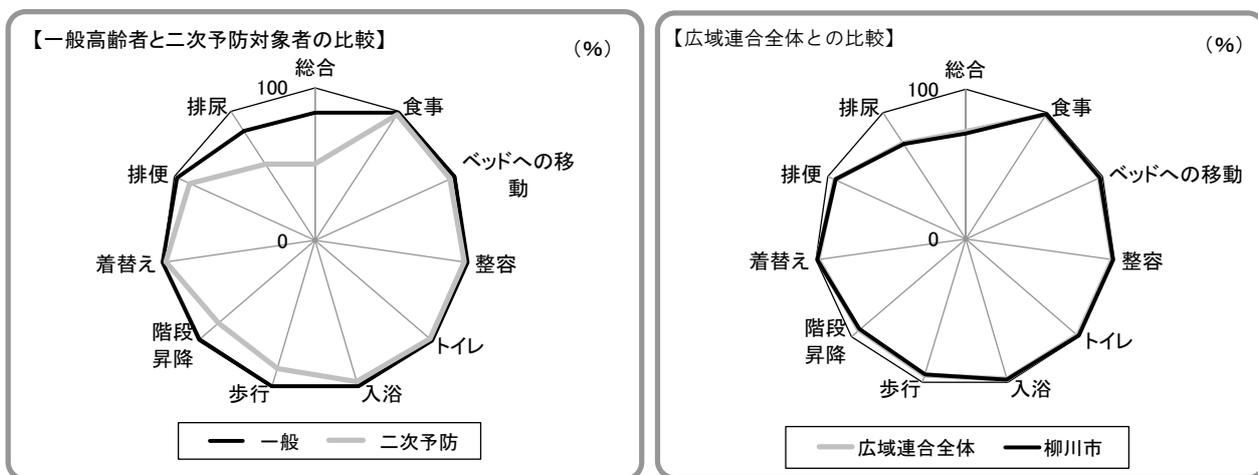
資料：福岡県介護保険広域連合より

ウ-2 前回調査時との比較

前回調査時（平成26年度）と比較して全体的に改善してきていますが、一般高齢者の「総合」「排尿」についてADL自立者がやや減少、二次予防事業対象者の「排尿」についてADL自立者が減っています。

	調査数 (人)	総合	食事	ベッドへの 移動	整容	トイレ	入浴	歩行	階段 昇降	着替え	排便	排尿
全 体	9,050	69.8%	98.6%	97.9%	98.7%	99.0%	98.2%	94.4%	92.1%	98.5%	94.5%	75.2%
一般(H26)	5,277	83.7%	99.1%	98.8%	99.2%	99.2%	98.3%	98.0%	97.7%	98.4%	96.9%	86.6%
一般(H28)	5,324	83.2%	99.5%	99.4%	99.6%	99.7%	99.6%	99.2%	98.8%	99.5%	98.2%	85.3%
二次予防(H26)	3,496	42.9%	96.2%	95.1%	96.5%	96.7%	94.0%	85.2%	79.4%	95.3%	85.8%	60.9%
二次予防(H28)	3,404	49.4%	97.8%	96.3%	97.8%	98.5%	96.4%	87.5%	82.3%	97.4%	89.3%	59.5%

資料：福岡県介護保険広域連合より



資料：福岡県介護保険広域連合より

エ 既往症

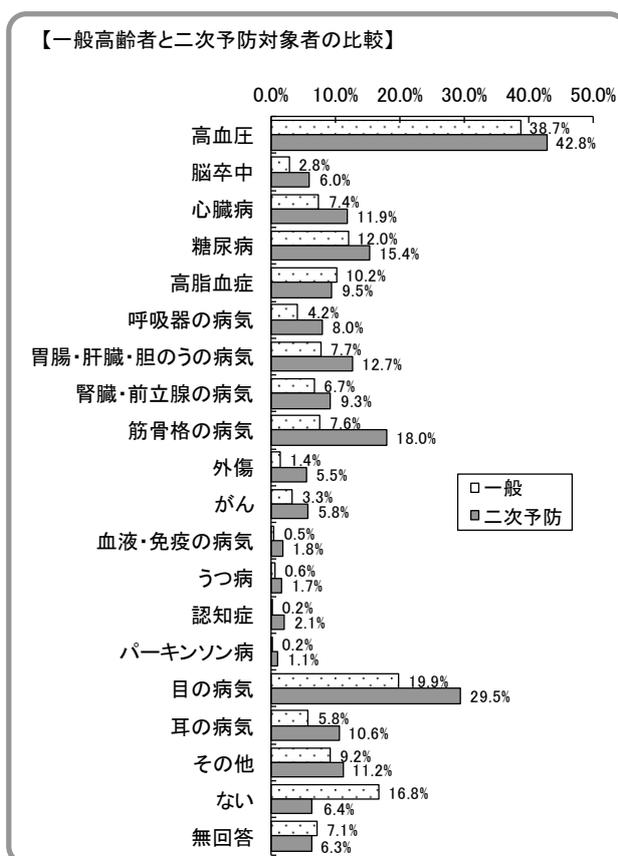
～最も多い既往症は「高血圧」～

現在治療中の病気で最も割合が高いのは「高血圧」で、一般高齢者・二次予防対象者のいずれも突出しています。

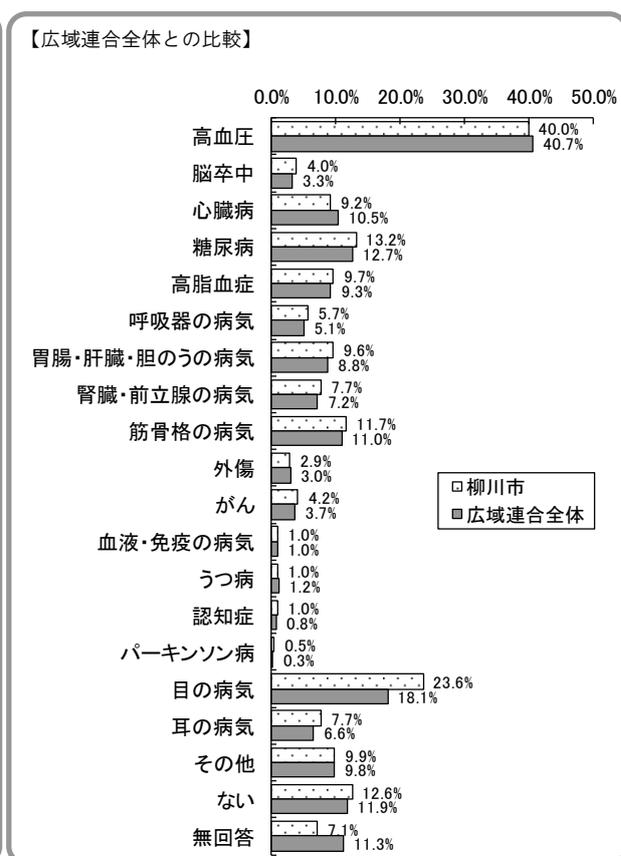
二次予防対象者は一般高齢者に比べて、「筋骨格の病気」や「目の病気」などの既往率が大幅に高くなっています。

広域連合全体と比較しても大きな違いはみられません。

■一般高齢者と二次予防対象者の比較■



■広域連合全体との比較■



資料：福岡県介護保険広域連合より

オ 認知機能の障がい程度

～認知機能の障がいありは、二次予防事業対象者の3人に1人～

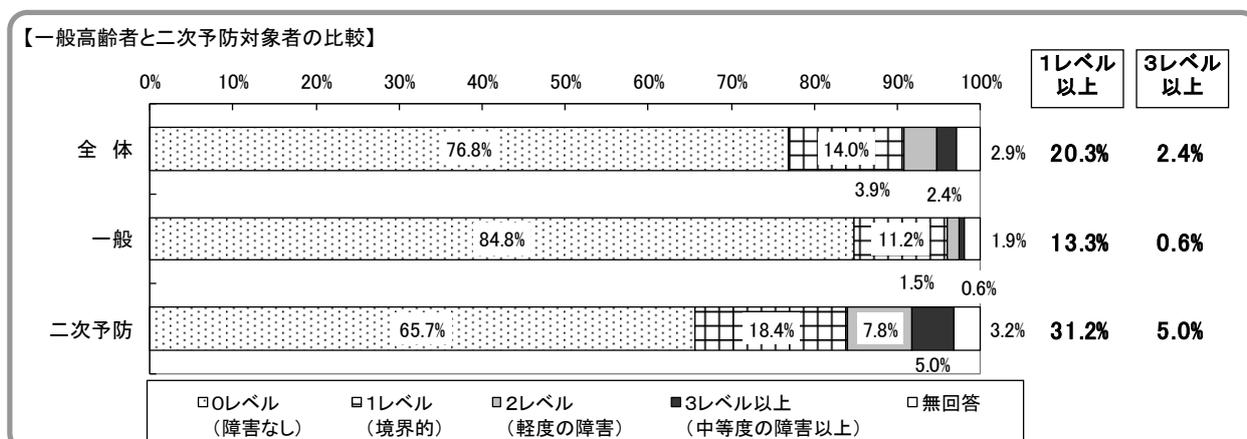
認知機能の障がい程度区分の分布をみると、認知機能の障がいありと評価される人（1レベル以上）の割合は、二次予防対象者で31.2%、一般高齢者でも13.3%を占めています。

認知症の行動・心理症状がみられる人（3レベル以上）は二次予防対象者で5.0%、一般高齢者でも0.6%となっており、その割合は、広域連合全体と比較して同程度となっています。

	調査数 (人)	0レベル (障がいなし)	1レベル (境界的)	2レベル (軽度の障がい)	3レベル以上 (中等度の障がい以上)	無回答	(参考) 広域連合全体 (3レベル以上)
全体	9,050	76.8%	14.0%	3.9%	2.4%	2.9%	2.3%
一般	5,324	84.8%	11.2%	1.5%	0.6%	1.9%	0.9%
二次予防	3,404	65.7%	18.4%	7.8%	5.0%	3.2%	4.5%

資料：福岡県介護保険広域連合より

■一般高齢者と二次予防対象者の比較■



資料：福岡県介護保険広域連合より

カ その他

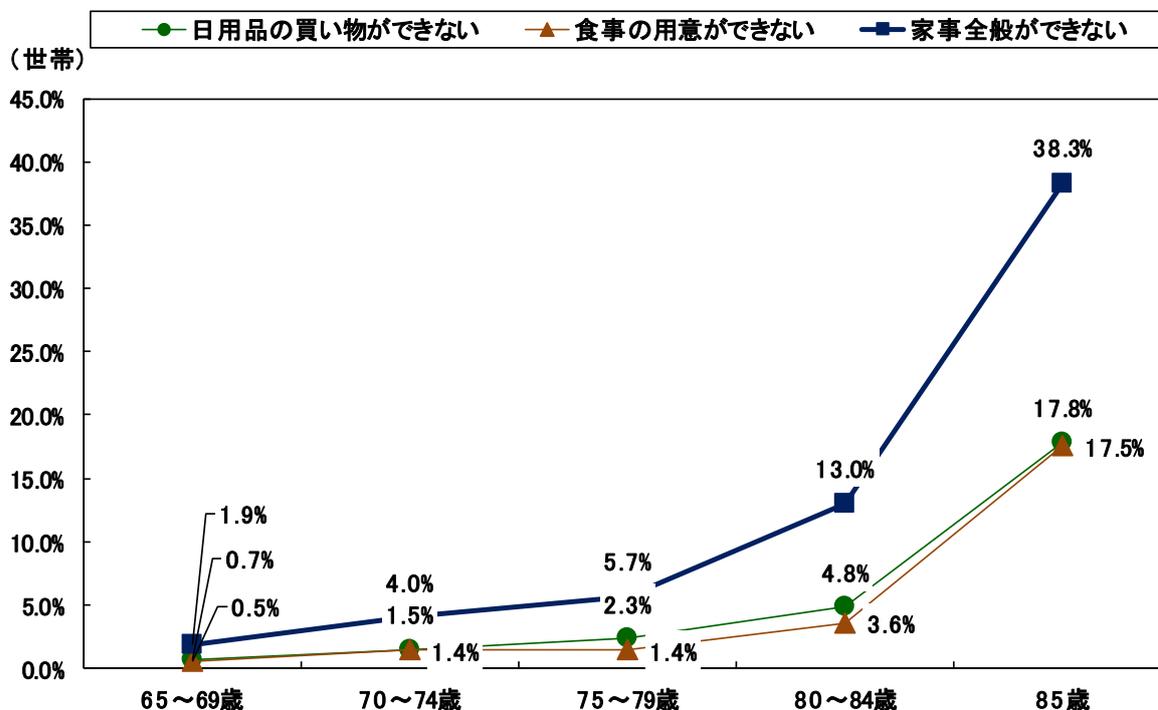
(ア) 健康について

「普段、自分で健康だと思うか」との問いについて、約72.5%の人が「とても健康」又は「まあまあ健康」と回答しています。

しかし、介護の状況に関する問いについて、約6.0%の人が「現在、何らかの介護を受けている」と回答しています。また、これらの人を主に介護しているのは、配偶者が39.8%と最も多く、次いで息子・娘23.4%の順となっています。

(イ) 家事などの実施困難状況

家事などの日常生活の状況においては、80歳以上になるとそれぞれの行為ができない人の比率が、次のグラフのとおり高くなっています。



単位：％

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳
日用品の買い物ができない	0.7%	1.5%	2.3%	4.8%	17.8%
食事の用意ができない	0.5%	1.4%	1.4%	3.6%	17.5%
家事全般ができない	1.9%	4.0%	5.7%	13.0%	38.3%

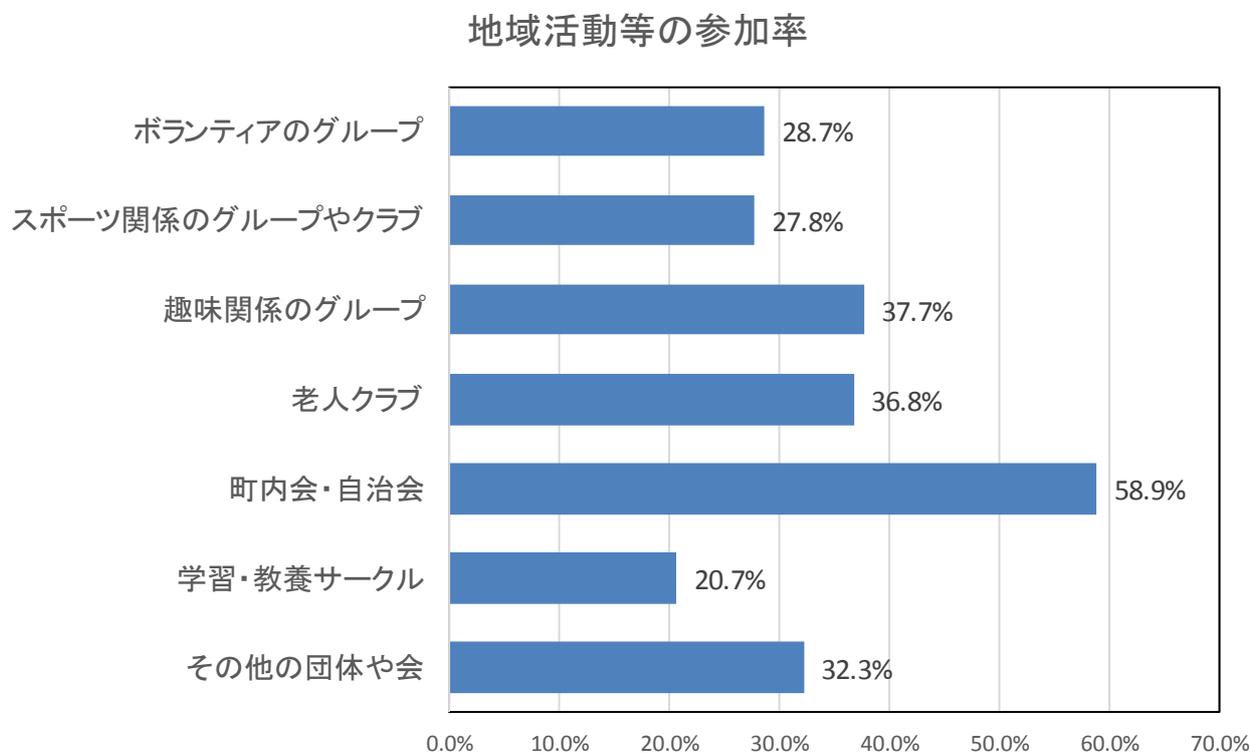
資料：福岡県介護保険広域連合より

(ウ) 一人での外出

バスや電車、自家用車などの交通手段を利用した外出状況においては、75.1%の人が一人で「外出している」と回答し、15.17%の人が「できるけどしていない」、6.6%の人が「できない」と回答しています。

(工) 地域活動などへの参加状況

地域活動への参加状況（複数回答）では、「町内会・自治会」へ参加している人の割合が58.9%と高く、「趣味関係のグループ」への参加(37.7%)や「老人クラブ」への参加(36.8%)の順となっています。



地域活動など	地域活動などの参加率
ボランティアのグループ	28.7%
スポーツ関係のグループやクラブ	27.8%
趣味関係のグループ	37.7%
老人クラブ	36.8%
町内会・自治会	58.9%
学習・教養サークル	20.7%
その他の団体や会	32.3%

資料：福岡県介護保険広域連合より

(オ) 日中ひとりになること

家族など同居している人のうち、「日中ひとりになることがあるか」との問いに対し、27.3%の人が「よくある」、42.1%の人が「たまにある」と回答しています。

(カ) 介護予防について

介護予防・健康づくり関連事業について、『現在の参加状況』と『今後の参加意向』をたずねました。

参加状況・参加意向ともに、全体では「元気サークル」（参加状況：4.3%、参加意向：10.2%）が最も多く、次いで「介護予防サポーター養成講座」（参加状況：0.7%、参加意向：3.5%）となっています。

参加状況	調査数 (人)	元気が出る学校（生活機能の向上が必要な方対象）	元気クラブ（運動機能の向上が必要な方対象）	元気サークル	介護予防サポーター養成講座
全 体	9,050	0.3%	0.5%	4.3%	0.7%
一般	5,324	0.2%	0.4%	4.5%	0.8%
二次予防	3,404	0.5%	0.7%	4.4%	0.5%

資料：福岡県介護保険広域連合より

参加意向	調査数 (人)	元気が出る学校（生活機能の向上が必要な方対象）	元気クラブ（運動機能の向上が必要な方対象）	元気サークル	介護予防サポーター養成講座
全 体	9,050	0.7%	1.5%	10.2%	3.5%
一般	5,324	0.5%	1.2%	11.7%	4.2%
二次予防	3,404	1.1%	2.2%	8.2%	2.8%

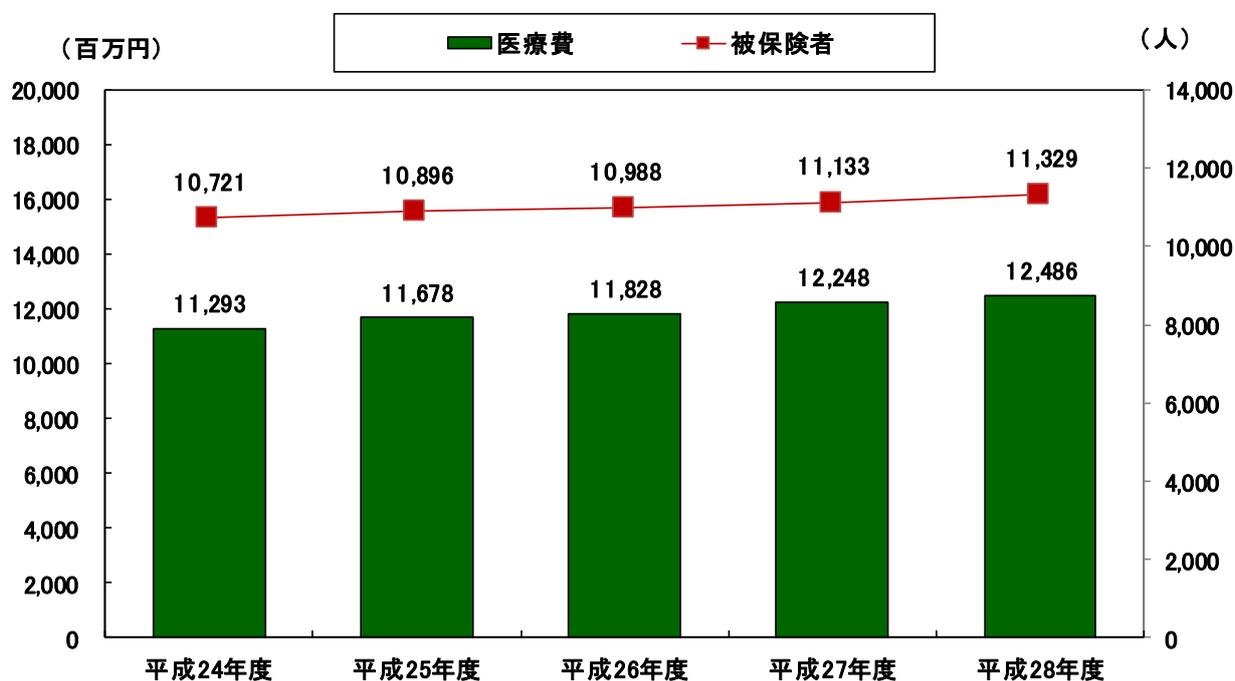
資料：福岡県介護保険広域連合より

6 後期高齢者医療の動向

本市における75歳以上の高齢者を対象とした後期高齢者医療費・被保険者の推移は以下のようになっています。平成28年度の後期高齢者医療費は124億8,600万円、被保険者数は11,329人と増加傾向となっています。

また、本市の1人あたりの後期高齢者医療費をみると、平成28年度は1,102,190円で、平成26・27年度に比べて増加しているものの、福岡県平均より低い水準となっています。

■後期高齢者医療費・医療被保険者数の推移■



(単位：百万円/人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
医療費	11,293	11,678	11,828	12,248	12,486
被保険者	10,721	10,896	10,988	11,133	11,329

資料：福岡県国民健康保険団体連合会より

■1人あたりの後期高齢者医療費■

(単位：円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
柳川市	1,053,404	1,071,831	1,076,500	1,100,210	1,102,190
福岡県平均	1,170,750	1,181,678	1,181,862	1,195,497	1,169,478
全国平均	919,452	929,573	932,290	949,070	-

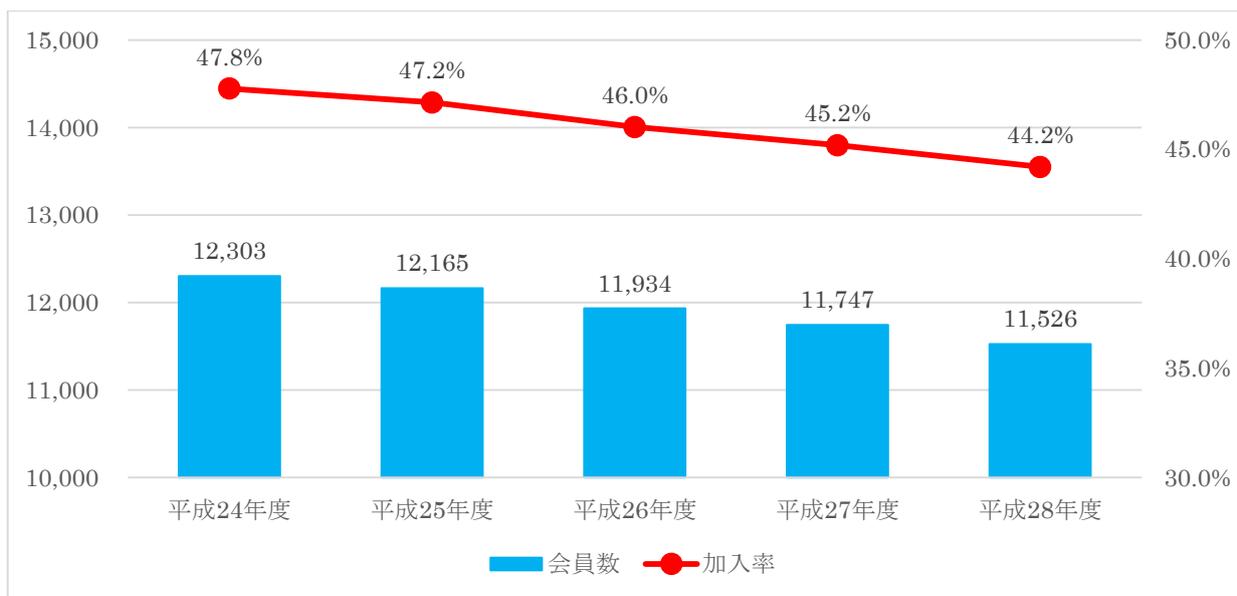
資料：厚生労働省[後期高齢者医療事業年報]より

7 社会参加・生きがいの状況

(1) 老人クラブ

本市における老人クラブ会員数をみると、年々減少しています。また、加入率についても、減少している状況です。

■老人クラブ会員数と加入率の推移■



	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
会員数 (人)	12,303	12,165	11,934	11,747	11,526
加入率 (%)	47.8	47.2	46.0	45.2	44.2
単位老人クラブ数 (クラブ)	191	191	185	185	182

注:各年度 3月 31日現在

資料:柳川市老人クラブ連合会より

【老人クラブの活動状況】

	活 動 内 容
友愛活動	虚弱高齢者へ訪問・支援
社会奉仕活動	公民館、道路などの清掃・空き缶拾い
防犯・交通安全活動	柳川警察署を招いて交通安全指導
交流活動	他世代交流 子どもに昔の遊びを教える
健康づくり事業	健康増進活動 <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり: 3B体操、フラダンス、健康体操、社交ダンス ・スポーツ: グランドゴルフ、ゲートボール、ペタンク ・その他: 高齢者料理教室、男性料理教室、健康講話、ふれあいサロン

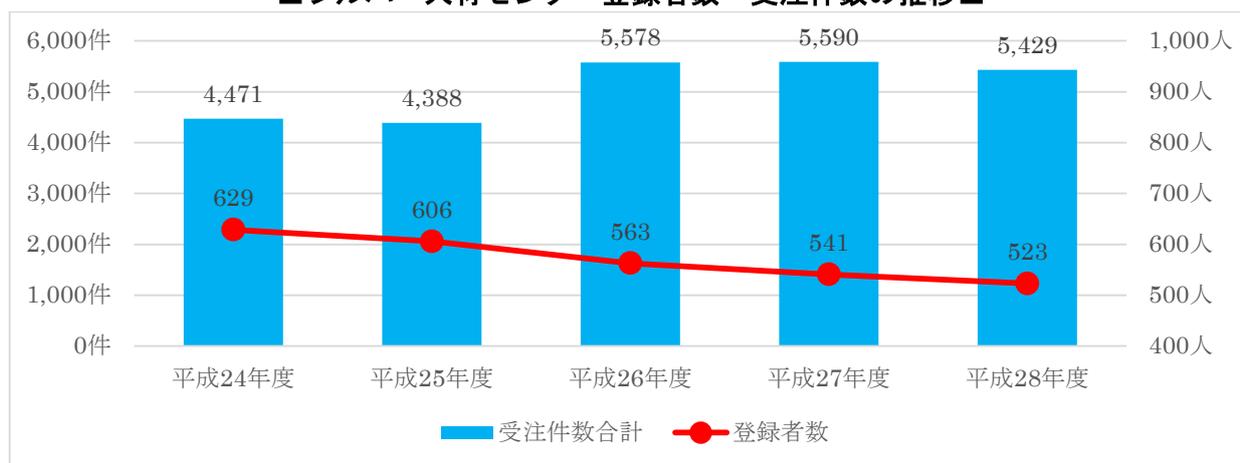
資料:柳川市老人クラブ連合会より

(2) シルバー人材センター

本市におけるシルバー人材センターの登録者数は、平成 24 年度は 600 人を超えていましたが、年々減少し平成 28 年度は 523 人でした。

しかし、受注件数は平成 26 年度に 5,000 件を超え、横ばいに推移しています。平成 28 年度の内訳では、「屋内外作業、草刈、除草」が 3,372 件と、全体の約 62%を占めています。これに「大工、左官、塗装、植木造園」が 1,043 件（19%）で続いています。

■シルバー人材センター登録者数・受注件数の推移■



■シルバー人材センターの希望職種別登録者数■

(各年度 3 月末現在、単位：人)

業務	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
教育、経理事務、運転	52	57	51	46	45
大工、左官、塗装、植木造園	130	118	102	90	85
整理事務、賞状・宛名書き	26	25	22	23	24
施設管理、受付管理	105	105	111	106	106
販売、集計、配達	10	7	7	7	8
屋内外作業、草刈り、除草	246	242	219	218	206
家庭内外作業、食事作り	58	49	47	46	44
その他	2	3	4	5	5
合計	629	606	563	541	523

資料：柳川市シルバー人材センターより

■シルバー人材センターの受注件数の推移■

(単位：件)

業務	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
教育、経理事務、運転	30	34	62	53	28
大工、左官、塗装、植木造園	1,374	1,392	1,116	1,047	1,043
整理事務、賞状・宛名書き	36	41	38	45	38
施設管理、受付管理	46	51	287	316	314
販売、集計、配達	7	6	63	73	75
屋内外作業、草刈り、除草	2,754	2,653	3,401	3,433	3,372
家庭内外作業、食事作り	224	211	611	623	559
その他	0	0	0	0	0
受注件数合計	4,471	4,388	5,578	5,590	5,429

資料：柳川市シルバー人材センター